

子供の名づけにおける姓名判断の利用 —インターネット調査から

間芝 志保

1. はじめに

本研究は、現代日本における子供の名づけにおいて姓名判断と呼ばれる占いが用いられている背景を考察することを目的とする。

第1年度目にあたる本年は、2025年1月に、インターネット調査会社を利用して実施した「子供の名づけについての調査」の結果にもとづき、現代日本における子供の名づけで姓名判断がどれほど影響力をもっているかを明らかにする。特に、親の年代によって姓名判断の参照割合が異なっている点に注目し、その要因を考察してみたい。

2. 姓名判断とは（概要）

以下では姓名判断の概要を述べる。姓名判断に関する歴史的経緯の検討は次年度以降に行う。

姓名判断とは、主に姓名の字画から運命の吉凶や性格、相性などを解釈する占いである。総画数やいくつかの文字の画数の合計数が吉凶数かどうかを判断するのが最も一般的である（たとえば姓の最後の一字と名の最初の一字の画数の合計が性格を表すなど）。

それぞれの姓名判断家によって吉凶数や計算方法等は異なっているため、同じ名前でも占いの結果は大いに異なる。たとえば漢字は全て旧字に置き換えて字画を数えるべきと説く者や（たとえば草かんむりを3画でなく4画とする）、漢数字は字画ではなくその数字で数えるべきと説く者もいる（たとえば四は5画ではなく4画とする）。かなや「々」字の扱いも人によって異なる。また一部では音（母音や子音、清濁音のもつ意味など）や文字の形（左右対称の意味など）、文字の陰陽（奇数と偶数の配置など）といった要素を取り入れる者もいる。

なお、中世ヨーロッパでも Onomancy あるいは Nomancy と呼ばれる姓名判断が流行した。これも数字で運勢を占う数秘術の一種と位置づけられ、母音数や文字総数、各文字に割り当てられた数値の合計などをもとに運勢を占うものであった。

現代日本における姓名判断の創始について、1912年（明治45）に姓名判断本を刊行した高階鏡郭によれば、姓名判断が社会に紹介されたのは1895、6年（明治28、9）「時の判断者岩手の人佐々木盛夫の新聞広告に始まれり」とある。著者の高階は佐々木とは旧知であったが、佐々木の姓名判断法が乾坤にもとづくのに対し、著者は五行こそが万物の根源物質の元素と考えており、たびたび議論したがついに相容れなかったという¹。なお著者は、従来、生児の命名にいささか便宜を与えるものとして名乗字引や名頭集^{なのもり ながしらしゅう}と呼ばれる書物はあったが、同書が初めての姓名判断による命名書となると述べている。

佐々木盛夫は1860年（万盛岡の教浄寺にて児僧となるが11歳で還俗した。太田代東谷や島

¹ 高階鏡郭 1912『生児命名姓名判断 伝授二百問答 附命名用字格集』人生哲理高階講究本部

田重禮に入門し漢学を修めた後、政界に身を投じたが、いろいろと苦勞を重ねたようである。その頃、本名の「儀助」ではなく「儀介」と名乗っていたが、それについて実母から、家伝来の正名法によって命名したにもかかわらずそれを勝手に改めたために失敗が続いているのだと戒められた。それを機に、8年に及び乾坤や五行、数理を探究し、姓名判断法を確立したという。それが評判を呼び、多くの者が吉凶判断を依頼に訪れ、今や門人数名に至り、その門人は皆身を立てているという²。

この明治末期以降より、姓名判断や姓名学を称する書物の刊行が相次ぐようになる。1908年（明治41）の『警察協會雑誌』（103号）に「ト筆とか人相見とか姓名判断とか云ふ半は迷信的のものも亦漸く流行するの傾向」との記述がられる。以降、大正期にかけて、一般の書物や記事の中にも最近姓名判断なるものが流行している、との記述が多数散見される³。その多くは批判的な記述である。

『主婦之友』には、1927年（昭和2）、木ノ上眞康なる占い師による記事で初めて姓名判断が登場する。1929年（昭和4）の新年特別号「新年特別二大附録」の1つは、約260頁に及ぶ別冊『幸運の占ひ法全集』であった。そのなかで熊崎健翁という人物が「最新開運自在姓名数理判断」を掲載している。この記事は大きな反響があったといい、同年熊崎は『運命判断 姓名の神秘』との単著を刊行する。同書には海軍軍人の松平胖夫妻が序文を寄せ、次のように記している。

熊崎式姓名学は先生の独創に成れる最新の霊科学として全く旧来の姓名学を根本より確信せられ、論理の徹底と事実の的中とは誠に驚くべきものであります。／私共は可なりの子福者でありまして、今までに生れた七名の子女の名前は悉く熊崎先生に命名して戴きました、長男は松平頼明（明治四十二年生）……⁴

これによれば、明治末頃には熊崎に姓名判断への依頼者があったことになる。続く熊崎の自序によれば、自身は1905、6年（明治38、9）から易学や運命学に関心を持ち始め、1914年（大正3）頃に独自の姓名学を完成したという。それが例の『主婦之友』1929年の新年号の別冊附録で初めて公開したところ、反響が大きく、全国各地のみならず満州や欧米からまでも、より詳細の説明を求める多数の書簡が寄せられたため、著書として公刊することとしたという。

なお同書の末尾には、誕生月、手相、人相、家相、骨相、方位の占い本の広告が掲載されている。墓相も同時期に『主婦之友』への記事掲載から流行したことが明らかになっており⁵、1929年頃には姓名判断のみならず占い本全般が流行していたことが窺える。

² 片岡哲 1901『立身致富信用公録 第1編』国鏡社、pp.53-56。

³ たとえば、上田千尋 1914『天道』宮沢書店、p.163、家庭問題研究会編 1915『御存知でせうか』平凡社、p.321、岡部愕堂 1916『損害予防 だまされぬ策』第16版楽山堂、p.231。

⁴ 松平胖・松平俊子 1929「尊き姓名学（序文）」熊崎健翁『運命判断 姓名の神秘』実業之日本社、p.3。

⁵ 問芝志保 2020『先祖祭祀と墓制の近代一創られた国民的習俗』春風社。

以上の資料調査により、現代に連なる姓名判断は明治中期に誕生し、当時においては姓名判断家のもとに出向くクライアントとして占ってもらうことが主であったが、明治末期から書物の刊行が見られ、昭和初期には有名誌も取り上げるところとなって広く普及したといえる。姓名判断におけるマスメディアとのかかわりは明治末期より見られることが明らかとなった。戦後以降の展開については今後の課題とする。

3. 子供の名づけに関するインターネット調査の結果

「子供の名づけについての調査」を、2025 年 1 月、インターネット調査会社である楽天インサイト株式会社のモニター登録者のうち、「女性」「既婚」「子供あり」と回答した者を対象として実施した。調査は目標サンプル数である 600 になった時点で終了した。回答者の属性として、年齢、居住都道府県、職種、世帯年収、住居形態、最終学歴、回答者の配偶者の最終学歴、第一子の性別および年代の情報を得ている。

以下の表では、全体+10 ポイント以上のセルに橙色、+5～+9 ポイントのセルに黄色、-5～-9 ポイントのセルに水色、-10 ポイント以下のセルに青色で着色している。20 代についてはサンプル数が少ないため参考値とする。

(1) 名づけに最も影響力をもった人

第一子の名づけの際に最も重視されたのは誰の意見だったかを選択式で尋ねた結果は次のとおりである。

第一子のお子さんの名前を決める際に、最も重視されたのはどなたの意見でしたか。

		(お子さんの) 父	(お子さんの) 母	(お子さんの) 祖父母	(お子さんの) 親戚	友人、知人	僧侶、 教者、 占師、 神職(神主)、 宗	あてはまるものはない	わからない/ 覚えていない
全体	n 600 100.0	275 45.8	208 34.7	30 5.0	1 0.2	1 0.2	15 2.5	44 7.3	26 4.3
年代	20代	8 100.0	2 25.0	3 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	2 25.0
	30代	55 100.0	15 27.3	38 69.1	2 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	40代	116 100.0	50 43.1	51 44.0	3 2.6	0 0.0	0 0.0	6 5.2	6 5.2
	50代	192 100.0	95 49.5	66 34.4	2 1.0	0 0.0	1 0.5	4 2.1	19 9.9
	60代	161 100.0	75 46.6	41 25.5	13 8.1	1 0.6	0 0.0	11 6.8	11 6.8
	70代	68 100.0	38 55.9	9 13.2	10 14.7	0 0.0	0 0.0	7 10.3	4 5.9

現在 30 代の親では「(お子さんの) 母」すなわち回答者自身を選んだ割合が 69.1% に上るが、50 代以上では母よりも父の方が重視される割合が高く、祖父母や宗教者なども影響力をもっていたことがわかる。

「僧侶、神職（神主）、宗教者、占い師など」を選んだ割合は、全体的には2.5%と高くないが、60代では6.8%に上る。

（２）名づけの際に、姓名判断を参照した割合

第一子の名前を決める際に、姓名判断を参照したかどうかを選択式で尋ねた結果は次のとおりである。

まず「画数は全く調べなかった」と答えた割合を見ると、30代～50代の親は2～2.5割程度であるのに対し、60代は41.0%、70代は57.4%であり、年代の若い方が画数を調べた割合が高い。

特に30代、また参考値の20代を見ると、インターネットやアプリを用いて姓名判断を参照する傾向が高いとわかる。それに対して50代、60代では、出産時におけるネットの普及率を考えれば当然のことながら、本で調べた割合が実に半数以上に上っている。必ずしも書籍を購入したとは言いきれないにせよ、30～40年以上前の時点で、姓名判断にもとづく名づけ本の大きな市場が形成されていたことが窺える。

あなたご自身は、第一子のお子さんの名前を決める際に、画数(姓名判断)が
良いかどうかを調べましたか。(いくつでも)

		画数を インターネットやア プ リ で 調 べ た	画 数 を 本 で 調 べ た	い 画 数 に つ い て 詳 しい 人 に 聞 いた	そ の 他 ：	画 数 は 全 く 調 べ な か つ た	わ か ら な い ／ 覚 え て い な い
	n						
全体	600	135	255	33	6	188	45
	100.0	22.5	42.5	5.5	1.0	31.3	7.5
20代	8	5	0	0	0	1	2
	100.0	62.5	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0
30代	55	37	17	3	1	11	2
	100.0	67.3	30.9	5.5	1.8	20.0	3.6
40代	116	50	50	4	1	23	11
	100.0	43.1	43.1	3.4	0.9	19.8	9.5
50代	192	37	98	11	2	48	13
	100.0	19.3	51.0	5.7	1.0	25.0	6.8
60代	161	6	71	12	2	66	9
	100.0	3.7	44.1	7.5	1.2	41.0	5.6
70代	68	0	19	3	0	39	8
	100.0	0.0	27.9	4.4	0.0	57.4	11.8

（３）名づけの際に何を重視したか

第一子の名づけの際にどのようなことを重視したかを四件法で尋ねた結果は、次の表のとおりであった。

「画数、姓名判断」を「とても重視した」割合は、30代32.7%、40代29.3%、50代27.1%、60代26.7%、70代11.8%となっている。年代が若いほど重視したと答える割合が高くなっている。一方、「全く重視しなかった」では、30代10.9%、40代9.5%、50代14.1%、60代18.6%、70代25.0%である。

第一子のお子さんの名前を決めた際、以下のことはどの程度重視しましたか。
1.漢字や言葉の意味

		n	とても重視した	やや重視した	あまり重視しなかった	全く重視しなかった	わからない／覚えていない
全体		600	202	274	80	20	24
		100.0	33.7	45.7	13.3	3.3	4.0
20代		8	1	4	1	2	0
		100.0	12.5	50.0	12.5	25.0	0.0
30代		55	20	25	6	3	1
		100.0	36.4	45.5	10.9	5.5	1.8
40代		116	47	53	12	1	3
		100.0	40.5	45.7	10.3	0.9	2.6
50代		192	67	90	26	5	4
		100.0	34.9	46.9	13.5	2.6	2.1
60代		161	51	75	22	5	8
		100.0	31.7	46.6	13.7	3.1	5.0
70代		68	16	27	13	4	8
		100.0	23.5	39.7	19.1	5.9	11.8

2.音の響き

		n	とても重視した	やや重視した	あまり重視しなかった	全く重視しなかった	わからない／覚えていない
全体		600	230	274	59	15	22
		100.0	38.3	45.7	9.8	2.5	3.7
20代		8	2	4	2	0	0
		100.0	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0
30代		55	31	21	2	0	1
		100.0	56.4	38.2	3.6	0.0	1.8
40代		116	55	52	5	1	3
		100.0	47.4	44.8	4.3	0.9	2.6
50代		192	83	84	15	4	6
		100.0	43.2	43.8	7.8	2.1	3.1
60代		161	48	79	23	7	4
		100.0	29.8	49.1	14.3	4.3	2.5
70代		68	11	34	12	3	8
		100.0	16.2	50.0	17.6	4.4	11.8

3.画数、姓名判断

		n	とても重視した	やや重視した	あまり重視しなかった	全く重視しなかった	わからない／覚えていない
全体		600	155	201	123	92	29
		100.0	25.8	33.5	20.5	15.3	4.8
20代		8	0	4	3	1	0
		100.0	0.0	50.0	37.5	12.5	0.0
30代		55	18	18	12	6	1
		100.0	32.7	32.7	21.8	10.9	1.8
40代		116	34	40	26	11	5
		100.0	29.3	34.5	22.4	9.5	4.3
50代		192	52	76	29	27	8
		100.0	27.1	39.6	15.1	14.1	4.2
60代		161	43	47	35	30	6
		100.0	26.7	29.2	21.7	18.6	3.7
70代		68	8	16	18	17	9
		100.0	11.8	23.5	26.5	25.0	13.2

4.先祖代々の名前のルール、親の名前とのつながり

		n	とても重視した	やや重視した	あまり重視しなかった	全く重視しなかった	わからない／覚えていない
全体		600	31	66	159	313	31
		100.0	5.2	11.0	26.5	52.2	5.2
20代		8	0	0	3	5	0
		100.0	0.0	0.0	37.5	62.5	0.0
30代		55	3	8	8	35	1
		100.0	5.5	14.5	14.5	63.6	1.8
40代		116	7	15	24	64	6
		100.0	6.0	12.9	20.7	55.2	5.2
50代		192	8	19	55	101	9
		100.0	4.2	9.9	28.6	52.6	4.7
60代		161	9	19	45	83	5
		100.0	5.6	11.8	28.0	51.6	3.1
70代		68	4	5	24	25	10
		100.0	5.9	7.4	35.3	36.8	14.7

5.偉人、有名人とのつながり

		n	とても重視した	やや重視した	あまり重視しなかった	全く重視しなかった	わからない／覚えていない
全体		600	10	27	129	406	28
		100.0	1.7	4.5	21.5	67.7	4.7
20代		8	0	1	2	5	0
		100.0	0.0	12.5	25.0	62.5	0.0
30代		55	1	3	9	40	2
		100.0	1.8	5.5	16.4	72.7	3.6
40代		116	3	8	20	80	5
		100.0	2.6	6.9	17.2	69.0	4.3
50代		192	4	7	44	132	5
		100.0	2.1	3.6	22.9	68.8	2.6
60代		161	0	8	37	109	7
		100.0	0.0	5.0	23.0	67.7	4.3
70代		68	2	0	17	40	9
		100.0	2.9	0.0	25.0	58.8	13.2

6.生まれた季節、日付、時間、場所とのつながり

		n	とても重視した	やや重視した	あまり重視しなかった	全く重視しなかった	わからない／覚えていない
全体		600	18	47	180	325	30
		100.0	3.0	7.8	30.0	54.2	5.0
20代		8	1	1	3	3	0
		100.0	12.5	12.5	37.5	37.5	0.0
30代		55	3	6	12	33	1
		100.0	5.5	10.9	21.8	60.0	1.8
40代		116	6	7	31	67	5
		100.0	5.2	6.0	26.7	57.8	4.3
50代		192	6	13	58	106	9
		100.0	3.1	6.8	30.2	55.2	4.7
60代		161	2	16	53	83	7
		100.0	1.2	9.9	32.9	51.6	4.3
70代		68	0	4	23	33	8
		100.0	0.0	5.9	33.8	48.5	11.8

やはり全体として、30～50代の親の方が、子供の名づけにおいて姓名判断を重視する傾向が強いといえる。特に30代の実に3割以上が「とても重視した」と答えている点は注目に値しよう。

ただし、30～50代においても、(2)の質問によれば7～8割がインターネットや本などで画数を調べているといえるにもかかわらず、(3)での「とても重視した」「やや重視した」の割合は6割～7割弱にとどまっていることには留意したい。つまり一応調べたものの重視はしない、という層が存在しているのである。これは現代における姓名判断の手軽さに起因していると考えられる。インターネットで「子供の名づけ」などと検索すると、多くの命名サイトが表示される。それらのサイトのほとんどは無料で利用でき、名前を入力するだけですぐに運勢や性格がわかったり、親の名前も入力すると親との相性まで鑑定できたりする。日常的にあらゆる情報をインターネットで検索している人々は、子供の名づけに際しても同じようにするのは当然ともいえる。

4. おわりに

インターネット調査の結果、50代を境に、親が30～50代では全体として、子供の名づけにおける姓名判断の参照が高い割合で行われていることが明らかとなった。特に現在30代の親の3割以上が、姓名判断を「とても重視した」と答えており、「やや重視した」も合わせれば65%を超えるとの結果は、注目に値する。ただし、画数が良いかどうか調べてはみたものの、その結果を重視したかといえは必ずしもそうではないということも併せて考慮すべきである。姓名判断の結果が名づけにおいてどれほど決定的なのか、より詳細な調査が求められる。次年度以降の課題としたい。